

2022年2月24日(木)～26日(土)

旧東海道ブラ歩き(15) 新居宿一岡崎宿

今回は遠江国新居宿から三河国岡崎宿の約55kmを2泊3日で歩いた。初日は新居宿一吉田(豊橋)宿23km、二日目は吉田一長沢17km、3日目は長沢一岡崎宿で19km。歩数は初日46000歩、2日目34800歩、3日目38000歩、合計118800歩であった。予め天気予報を調べて日程を組んだこともあって3日間とも快晴に恵まれた。

これまでの旅の記録を見て子供達が横断歩道ではないところは渡らないようにきつく言ってきたので不本意ながらかなりその忠告に従い地下道を潜ったりしたが若干の例外があった。

今回もこれまでと同様街道歩きを楽しんだが、歩き出した日にロシアのウクライナ侵攻がありロシアの暴挙に対する怒りが頭から離れなかった。通常はホテルに入ってからテレビを見ることはしていないが、今回はNewsを中心にテレビのスイッチを入れた。

今回印象が強かったのは本陣を中心とした二川の街並み、平成27年まで営業をしていた赤坂宿の旅籠大橋屋、(御油や藤川など)各地にあった松並木で、この他には芭蕉の句碑がそこら中と言って良いほどあったことにも驚かされた。

今回は豊橋と豊川の境にある用水路(といっても結構広い川)にかかる橋の手前から橋の上、渡り終わって暫くの区間を通して全く歩道がなく、特に橋を渡るのに極めて怖い思いをした。一寸でも躓いてよけたら確実にトラックにひかれるところだ。天下の東海道にこんな道があるとは驚きだ。この点は橋を管理する自治体に厳重に注意を申し入れる所存(帰京の翌日豊橋市役所に電話で申し入れた)。

この他、道中の地図係が家内であることは既に述べたが、今回は出発前に家内が案内書とパソコンで色々な地図を調べて大体のことを頭に入れてくれていたので、こちらは大船に乗った気分で行く方に専心し、旅の主導権は完全に家内のものとなった。

Day 1、 新居一豊橋 2月24日(木) 快晴だが風強く寒し

6時34分、新幹線ひかりで品川出発。車中おにぎり朝食。豊橋までの停車駅は新横浜、小田原のみ。いつものこだまより随分早い。7時59分豊橋着、JRで5つ駅を戻り、前回終了した新居着。8時半ころから歩き始める。

8時39分新居関所跡通過。9時29分藤原為家の歌碑を見る。

風わたる濱名の橋の夕しおにさされてのぼるあまの釣船

10時15分、潮見坂下に到着。ここから潮見坂の登りが始まる。途中振り返ると遠州灘が蒼く見える。良い景色だが、薩埵峠には及ばない。10時37分、登りきったところに「おんやど白須賀」があり白須賀宿の展示があったので立ち寄る。白須賀村は元々汐見坂下にあったが、宝永4年(1707年)の津波で全滅し、坂のうえに町が作られたものである。しかしこの辺りは風が強く大火が続いた為、防火のために火に強い榎の木を植えたとのことで、その木が2本だけ残っていた。

おんやど白須賀には広重が白須賀宿を描いた絵の大きな複製が展示してあり、当時の白須賀宿の様子がわかる(写真1)。11時17分本居宣長門下の国学者だった夏目みか麿の生誕地を通過。

白須賀宿の街並みが途絶えると、国道1号線沿いの面白味が全く無い道をひたすら歩く。周りはキャベツ畑。漸くファミリーマートがあったのでサンドウィッチとコーヒーでランチとする。

国道1号線に別れて右折、新幹線のガードをくぐり、東海道線の踏切りを渡り、13時27分漸く二川宿に入る。この町は当時の面影を残しており、楽しめる街であった。町の古い家々はそれぞれ屋号をかかげ、例えば旅籠屋の和泉、その隣旅籠屋の中村屋といった具合である。二川宿では1月末から3月にかけて雛祭りが開催されており、街道に面した全ての家に吊るし雛がかけられていた。

13時49分、商家駒屋を見学。入り口に見事な雛がまつられておりそれに惹かれて入ったところ、ここは間口こそ狭いが奥行きがえらくあり、その一番奥の建物でカフェをやっていたので早速ここでお茶とお菓子で一休み。ここを出てほんの少し歩くと今度は二川宿の本陣資料館だ。入場料を払って入ったが、ここもお殿様が休憩する部屋以外のほぼ全ての部屋が雛で飾られ建物を見ると言うよりひな祭りに参加している感じだった(写真2)。本陣は間口7間、奥行き35間と駒屋と同じく非常に細長い土地と建物であった。この背景には税金が間口に対してかかったことが容易に想像できる。15時まで二川宿で過ごす。

愈々吉田宿(豊橋)に入り16時40分に田楽で有名で江戸時代から続く「きく宗」で早めの夕食を取ろうとしたが、折からのコロナ蔓延防止措置のため昼だけの営業とのことで残念ながら断念し、この日の行程を終了とした。尚、直ぐ手前に在る吉田宿本陣は鰻屋になっていた。また、きく宗のすぐ側においしそうな和菓子屋(若松園)があったので生菓子や

羊羹などを買い込みそこから市電とタクシーで18時15分ロワジールホテルに到着。疲れたのでホテルの中華で夕食とした。本日の総歩数は46000歩、23キロであった。

Day 2 2月25日(金) 晴 豊橋ー長沢

ホテルが21階で周りに高い建物がないので部屋から三河湾とその向こうの知多半島がよく見える。朝寝坊をして8時55分のホテルバスと市電で昨日の終了地点に向い歩行を再開。

9時36分、豊川をわたる直前に芭蕉が吉田の宿で読んだ句碑を見る。

寒けれど2人旅寝ぞたのもしき

9時44分豊橋を渡る。水が大変綺麗だったのが印象的だった。9時52分聖眼寺で再び芭蕉の句碑をみる。下記で「こ」とは松葉のこと。芭蕉と聞くと何でもありがたがるが、中には駄作もあるだろう。漱石関連の文章の中で子規が芭蕉のある句を最大の駄作と言ったというのを読んだことがあるが、残念ながらこの分野に暗い我々にはこの判断が出来ない。有り難がるより他にない。

こを焚いて手拭あぶる寒さ哉

9時57分日本橋から74里(296km)の道標があった。京都まで残り200kmだ。10時16分瓜郷遺跡、旧道から100mくらい入った所にあった。弥生から古墳時代前期にかけての集落跡。竪穴式住居が復元されている。国指定史跡。

10時40分頃豊橋と豊川の間にある豊川放水路にかかる橋(地図で見ると旧東海道は496号線で、その場合橋の名前は「高橋」のようだ)にさしかかるが、手前100m位前から歩道が全く無くなり歩行が非常に危険な状態となった。迂回路をさがしたが全くなく、仕方なくそこを進む。2車線しかない車道の右端を我々が歩くが、直ぐ脇を上り下りの車が疾走する。家内は「危ないから早くあるけ」と言うがそう早くは歩けない。漸く渡り切って数十メートルして始めて歩道が出てきて、ホッとしたが生きた心地がしなかった。こんなに怖い思いをしたのは初めてだった。しかし考えてみると、ここは天下の東海道だ、その途中でこんなに危ない場所があつていいわけがない。この場所は豊橋と豊川にかかっているの、どちらに責任があるか不明だが、帰京後、両市に連絡して苦情を申し述べるつもりだ(2月28日豊橋市観光課の水谷さんに電話で実情を話し、すぐにとは言わないがれっきとした旧東海道にこんなに危ない橋が架かっていることを先ず職員に歩かせて実感してほしいと要請。先方趣旨は了解。本件すぐには対処できないので善処を要請)。

11時14分、豊川市宿町を歩いていると古民家を改装した洒落たカフェがあり入る。「もくせいの花」と言うカフェでブランチが250円＋コーヒー350円と安かったのでここで昼食を済ますこととした。大変おいしかった。元々はシフォンケーキから始めたらしい。ここで50分ほど休んだことで橋を渡った時の嫌な思いを払拭出来、再び快適な歩行に戻った。(写真3)

地図を見ながら進むが途中で旧東海道が無くなり一寸戸惑ったが、人に聞いたりして元に戻ることができた。13時18分白鳥5丁目で日本橋から305キロの標識があった。14時丁度に御油の一里塚にさしかかる。14時5分、姫街道追分地点を通る。途中、ベルツ夫人「花」の生家跡(初の国際結婚をした日本女性、驚くことに帰国するベルツに従ってBerlinでも生活をした)を見ながら進むと、14時28分、御油の松並木が始まる。黒松350本(写真4)。この途中またも古民家カフェが有り飛び込んで一休み。30分ほどいたが、この間東を目指して歩いている一組と西向きに歩くカップルの旅人を見る。後者はこの翌日偶々一緒になって言葉を交わした人たちだった。

15時19分、赤坂見附跡の立札に説明がある中に当時の赤坂宿を描いた広重の絵があり当時を偲ぶことができる。15時24分、再び芭蕉の句碑あり。

夏の月御油よりいでて赤坂や

15時29分赤坂本陣跡、同34分、広重が描いたソテツがある浄泉寺でソテツの写真を撮る。同37分、旅籠大橋屋(平成27年まで営業していた)に立ち寄りボランティアの人の詳しい説明に大変興味をもった。平成時代には2階に客間が3つだけあり、友人の吉田さん達が平成15年にその一間に宿泊した感動を書いているが、正にその場に立って周囲を見渡すと大変興味深い(写真5)。江戸時代はここに飯盛り女がいて2階から客引きをしていたとのことだったが、その窓も開けて見せてくれた。16時に辞去。本当はここで当日の旅を打ち切る予定であったが、ボランティアの人に日没まで時間があるから大丈夫と言われて隣の長沢まで歩き17時丁度に名鉄長沢駅着、電車で17時30分豊橋駅に戻り夕食後、ホテルのバスでホテルへ帰る。本日の総歩数34800歩、総距離17キロ。

Day 3 長沢一岡崎宿 快晴 日中はやや暑い

8時15分、ホテルのバスで豊橋駅に向かい8時40分発の名鉄で9時過ぎに昨日の終了地点の名鉄長沢駅に到着、早速西に進路をとる。暫くすると昔の街道らしい雰囲気になる。その後国道1号線と合流し車の騒音の中を歩いて、9時45分に日本橋から314kmの標識を通過、すぐに本宿村に入る。ここから隣の藤川村まで1里とあり、村の歴史を記した立て札がある。

10時に法蔵寺という立派な寺に着く。ここは徳川家の祖松平一族の墓があるほか、新選組の近藤勇の首塚がある。近藤勇は慶応4年江戸の板橋で斬首されたがその首は京の三条河原で曝された後、縁あってここに埋葬されたことが昭和33年の寺の記録の調査で分かった旨の説明がある。参拝者は結構いた。

11時10分頃赤坂宿（静岡県）と藤川宿（愛知県）の境界の標識を通過、民家に駐車中の車のナンバーが浜松から岡崎に変わる。11時40分藤川宿に入る。京へ46里27丁、江戸へ78里29丁と記した東棒鼻跡（藤川宿の東端）で写真を撮る。広重はここを通過する行列の一行を描いているそうだがどんな絵かは出ていなかった。ここから旧東海道らしい静かな街並みを歩く。本陣や脇本陣を通過し12時36分芭蕉の句碑がある。大きな石に刻まれて読めないが、解説の立て札を見ると下記の通り。このあたりは染料として用いられたむらさき麦で有名だった由。見頃は5月中旬とかで今回は見られなかった。

ここも三河 むらさき麦の かきつばた

12時47分松並木にかかる（写真6）。江戸時代を彷彿とさせる見事なもの。食べ物屋が全くないので松並木を越えたあたりのベンチで昨日買い置いたパンを食べてしのぐ。そこに老年のカップルが通りかかり話をしてみると大宮在住で、ご主人は70才、奥さんは大分若そうに見える。矢張り日本橋から歩いているとのこと、この日は岡崎公園の近くで泊まり、明日行けるところまで行って帰宅とのこと。以降このカップルと抜きつ抜かれつといった状態で岡崎市内に至る。彼らに先を譲り歩き続けると、途中三国志という中華があったのでそこで昼食。14時17分道から少しずれたところに大岡越前守がこここの大名として居住していた西大平藩陣屋跡があり立ち寄る。ここで件の夫婦と再会。

愈々本日のゴール地点岡崎の繁華街に入る。伝馬通りを歩いていると昭和モダン珈琲「茶楽音（ちゃらお）」という洒落た店があったので躊躇無く飛び込み、「家康公わらびもち」を注文。20分以上待たされたが出てきたものは見た目の色彩、味わい共に大変結構だった（写真7）。ここで30分以上時間を潰し、16時過ぎに愈々岡崎宿東海道二十七曲りにかかる。岡崎城の防衛策だが、道路の標識に沿って27回も右折・左折を繰り返しているうちに自分がどっちを向いているか全く分からなくなる（家内は地図を見て歩いているのでそうでもないらしい）。途中岡崎城址の遠景が見えるので写真に収める。また、芝生を敷いた広い広場で自由に子供を遊ばせる場所もあり、子供を育てる環境は優れているのではないかと感じた。二十七曲りの終了地点が名鉄岡崎公園駅のすぐそばだったのでここで今回の旅は終わりとし、17時17分の名鉄で豊橋に戻り、そこで夕食後18時51分のひかりで品川経由20時半無事帰宅。今日の距離と歩数は38000歩、19km。

3日間の総経費は交通費 24000 円、食費 24000 円、宿泊費 22600 円、その他 5000 円、計 71000 円

次回は 1 泊 2 日で宮宿までを目指そうと考えている。だんだん京都が近づいてきた。



写真1 白須賀の街並 (広重)



写真2 二川商家のひな飾り



写真3 豊川の古民家カフェ



写真4 御油の松並木



写真5 旅籠大橋屋の2階座敷



写真6 藤川の松並木



写真7 家康公のわらびもち